

世界が進むチカラになる。



経済調査

欧州景気概況(2025年8月)

2025年8月4日

調査部 主任研究員

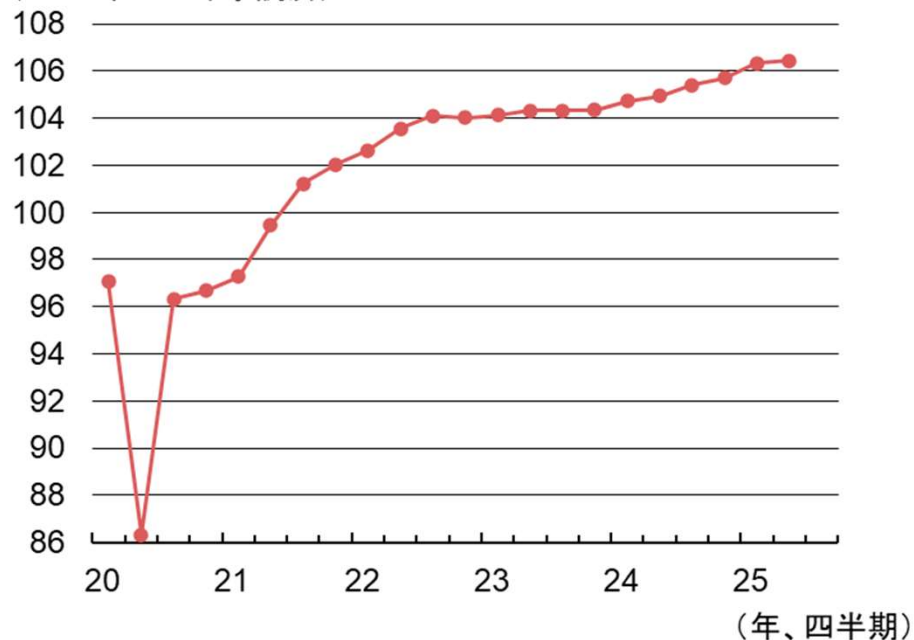
土田 陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は拡大している

ユーロ圏の2025年4-6月期の実質GDP(速報値)は前期比+0.1%と、1-3月期(同+0.6%)から失速したが、拡大が続く。国別にはスペインが同+0.7%と堅調を維持し、フランスも同+0.3%と前期(同+0.1%)から増勢が加速したが、イタリアとドイツが再びマイナス成長となった。一方、最新7月の景況感指数は95.8と再び上昇も、横ばい圏での推移が続く。

実質GDP

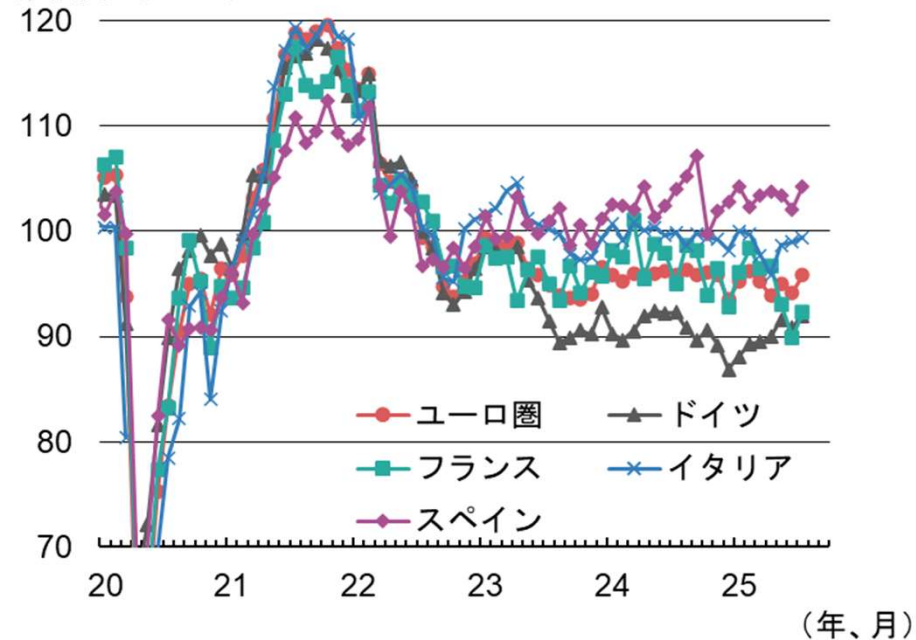
(2021年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)

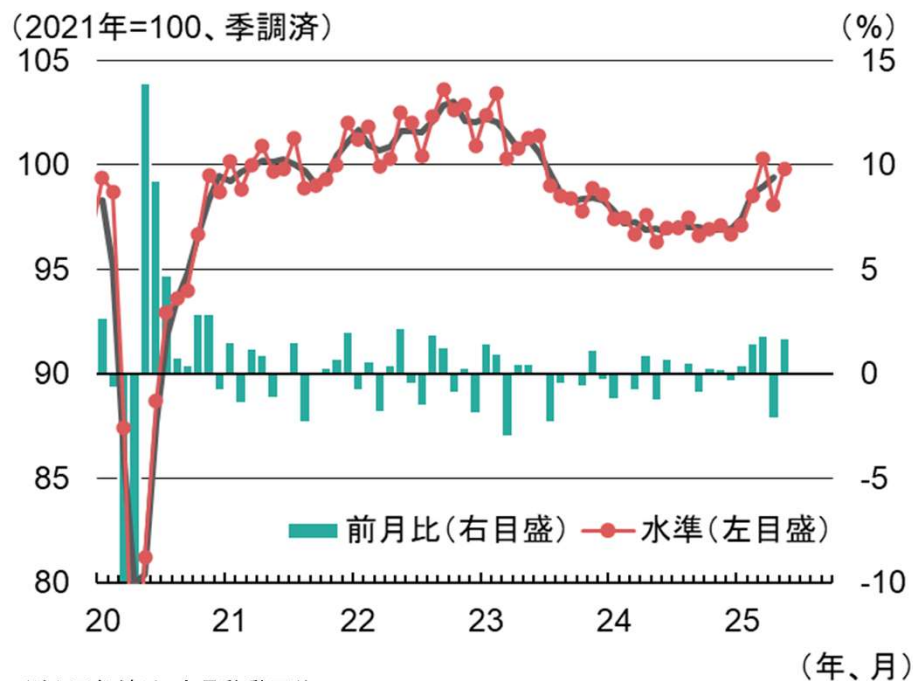


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は回復している

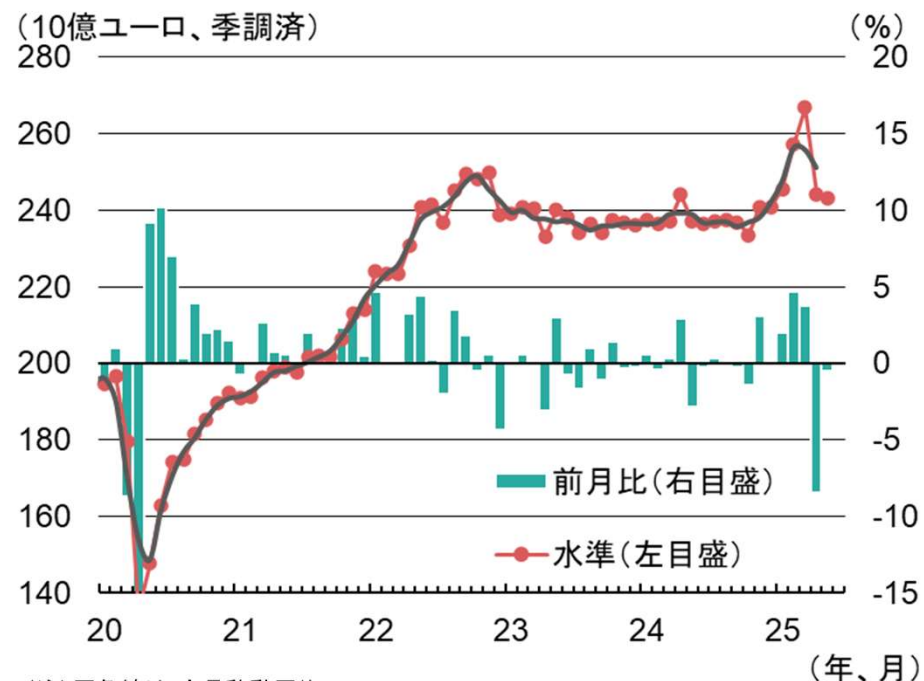
ユーロ圏の5月の鉱工業生産は前月比+1.7%と反発し、均した動きも上向きを維持。一方、同月の名目輸出は同▲0.5%と2カ月連続で下落し、均した動きは下向きに。米トランプ政権による「相互関税」(トランプ関税)の発動を目前とした駆け込みの反動減が生じた模様。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

名目輸出

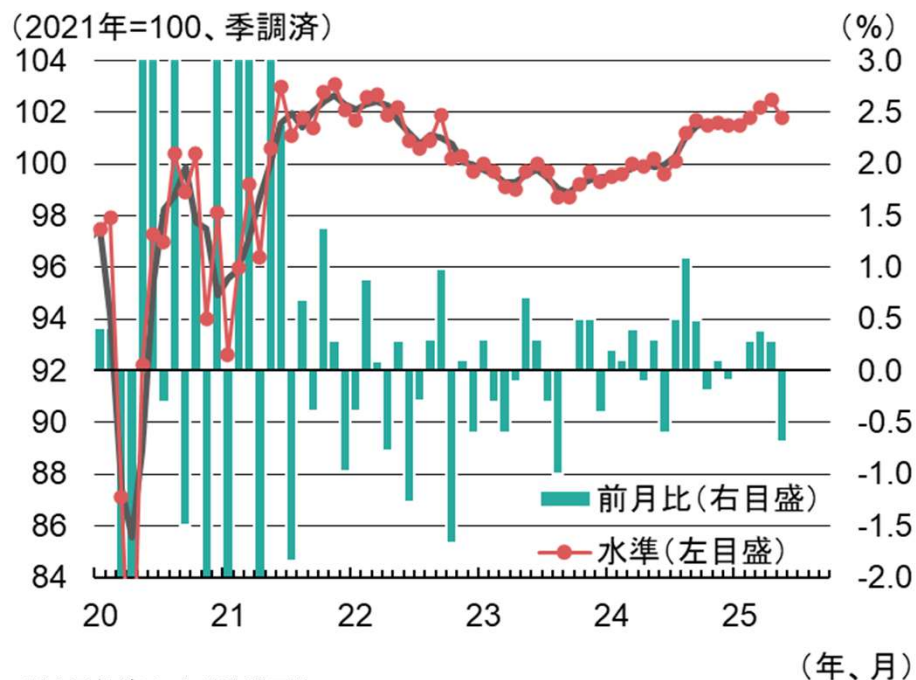


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は回復している

ユーロ圏の5月の小売数量は前月比▲0.7%と2024年12月以来の減少となったが、均した動きは上向き。一方、6月の新車販売台数は前月比▲5.4%の年率863万台と2カ月連続で減少し、均した動きは横ばい。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

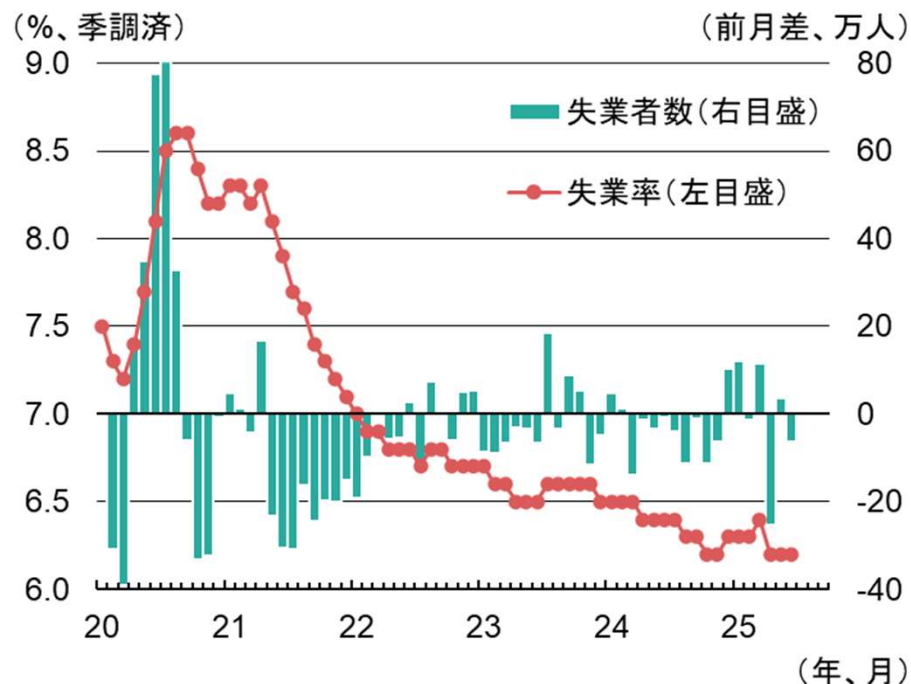


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は完全雇用の状態である

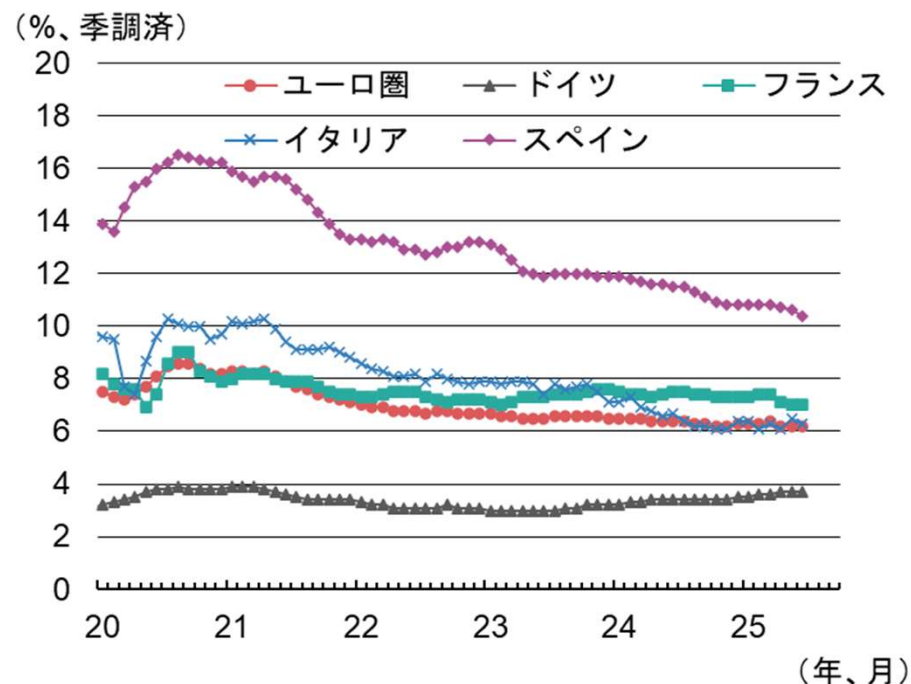
ユーロ圏の6月の失業率は6.2%と3カ月連続で横ばい。一方、同月の失業者数は前月差6.2万人減と再びマイナスとなったが、均して判断すると、雇用は完全雇用の状態であると考えられる。主要国別に失業率を見ると、スペインが低下基調、フランスとイタリアが横ばい圏、ドイツが上昇基調での推移となっている。

失業率と失業者数



(出所) ユーロスタット

主要国別失業率

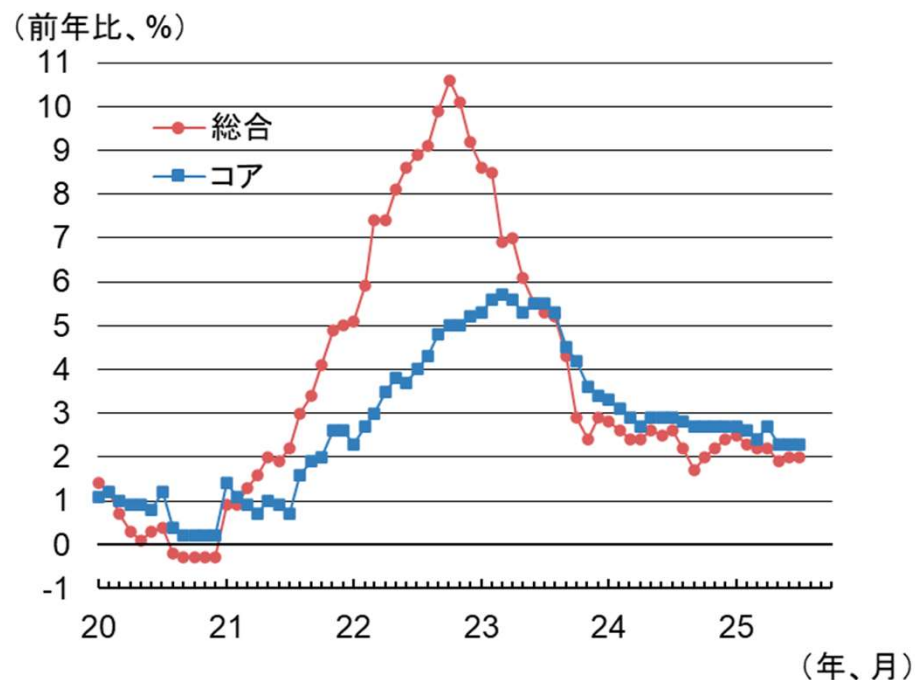


(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレは安定している

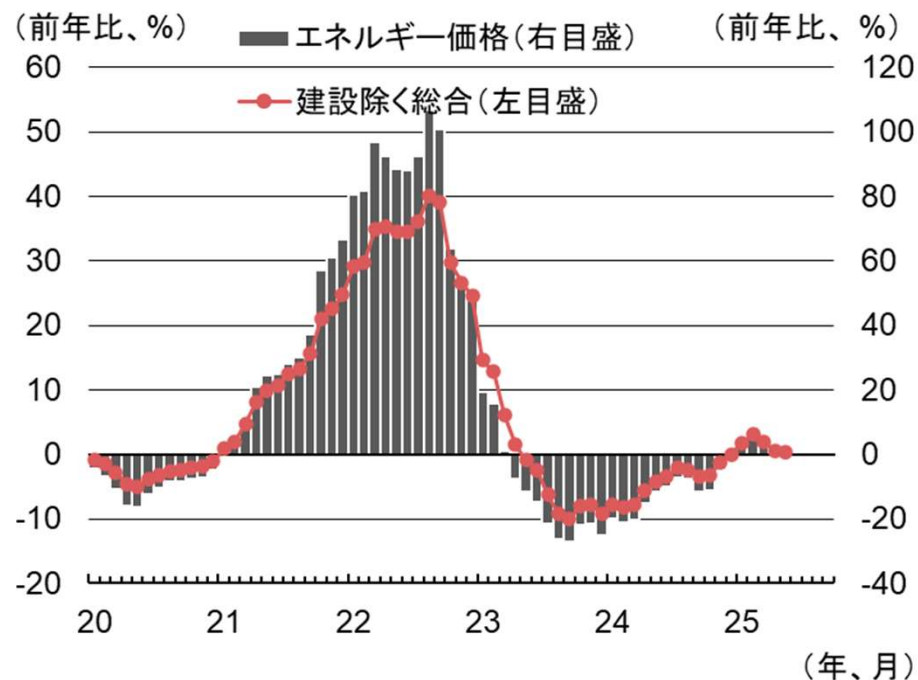
ユーロ圏の7月の消費者物価は総合ベースで前年比+2.0%に、また変動が激しい項目を除いたコアベースは同+2.3%にとどまり、インフレは安定していると判断される。一方で、生産者物価（建設除く総合）は、5月時点で前年比+1.1%と2カ月連続で同じ伸び率となった。

消費者物価



(出所) ユーロスタット

生産者物価

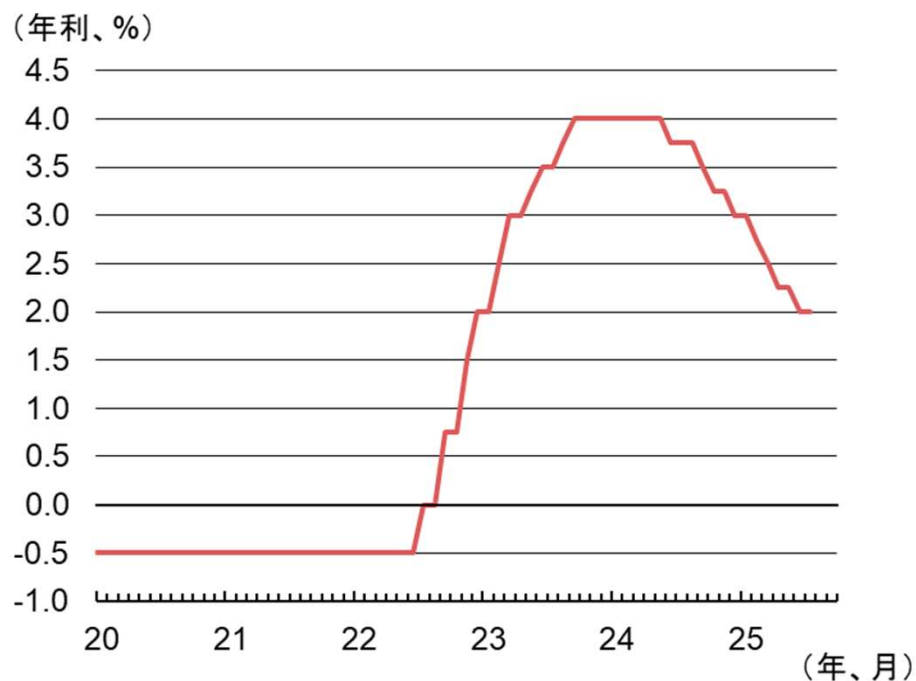


(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは7月理事会で金利を据え置き

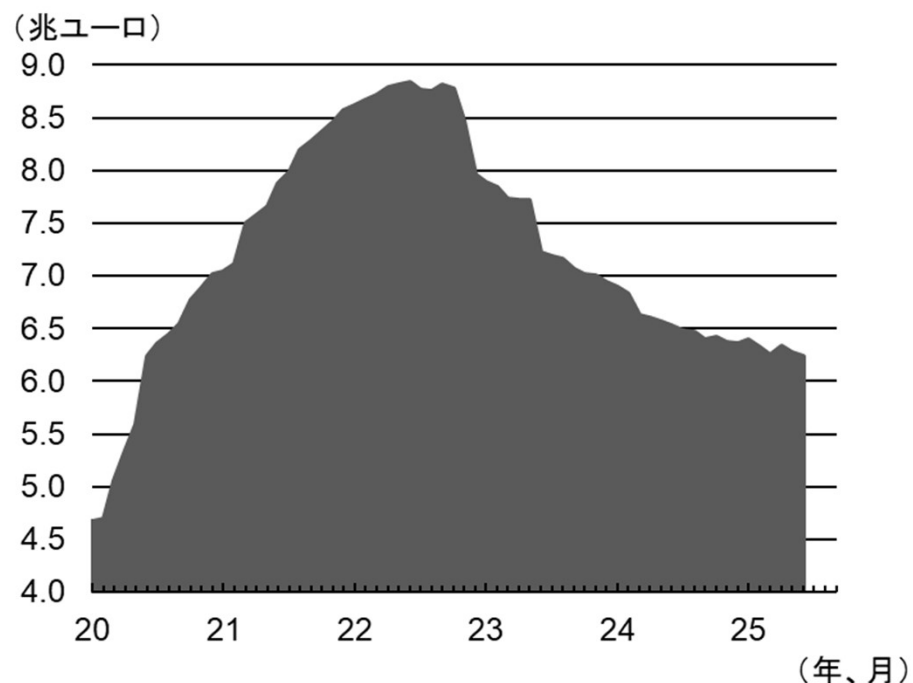
欧州中央銀行(ECB)は7月24日に開催した政策理事会で、事実上の主要政策金利である預金ファシリティー金利を据え置き、年2%とした。クリスティーヌ・ラガルド総裁は、これまでの利下げの効果を見定める姿勢を強めている。次回の理事会は9月11日を予定。

政策金利(預金ファシリティー金利)



(出所) ECB

ユーロシステムのバランスシート

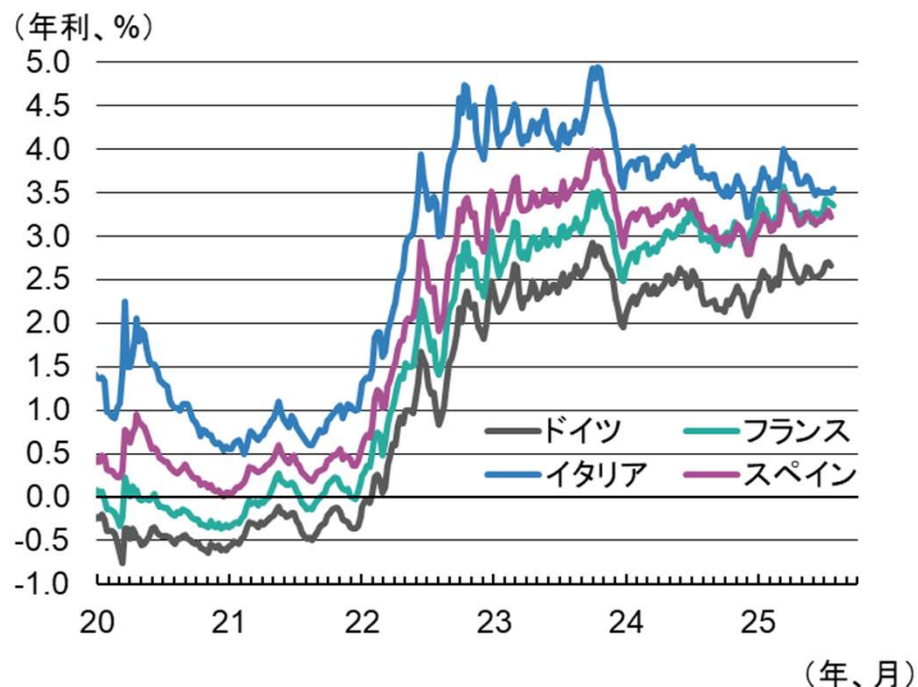


(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は上昇

7月のユーロ圏主要国の長期金利は上昇。ドイツの財政支出の拡大に対する懸念や米国との関税協議の合意などから金利は上昇した。一方で、同月のユーロ圏の株価は上昇。米国との関税協議の合意や企業業績の改善が株価を押し上げた。

10年国債流通利回り



(出所) 各国中銀

株価 (Eurostoxx50)



(出所) STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドルで下落、対円で上昇

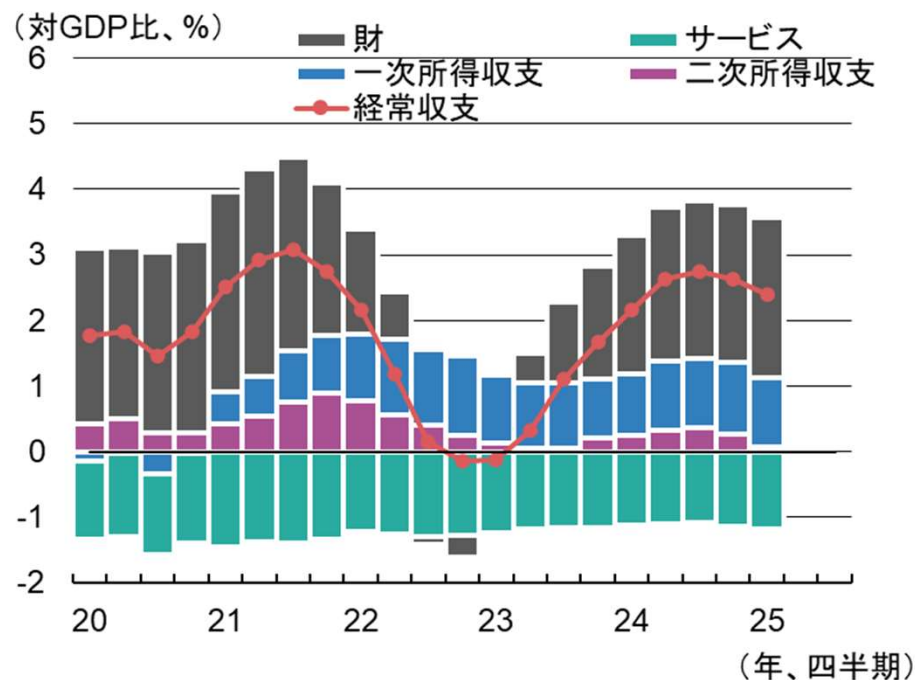
7月のユーロ相場は対ドルで下落、対円で上昇。対ドルでは、米連銀(FRB)が利下げを見送ったことでユーロ安ドル高となった。一方対円では、日銀が利上げを見送ったことでユーロ高円安となった。経常収支は財収支(貿易)黒字が高止まりしており、実需面からのユーロ買い圧力は安定している。

ユーロ相場



(出所) ECB

経常収支



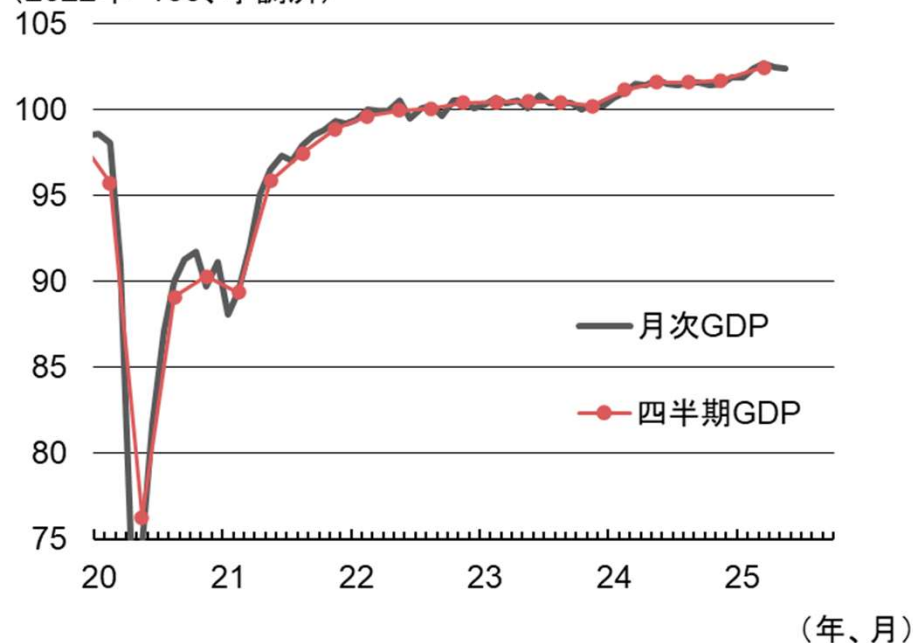
(出所) ECB、ユーロスタット

英国景気概況① 景気は拡大している

英国の1-3月期の実質GDP(確報値)は前期比+0.7%と、24年10-12月期(同+0.1%)から増勢が加速した。主要な需要項目別には、設備投資を中心とする総固定資本形成やトランプ関税の発動を前に駆け込みが生じた輸出が堅調に推移し、景気をけん引した。一方、最新5月の月次GDPは▲0.1%と2カ月連続で減少した。

実質GDP

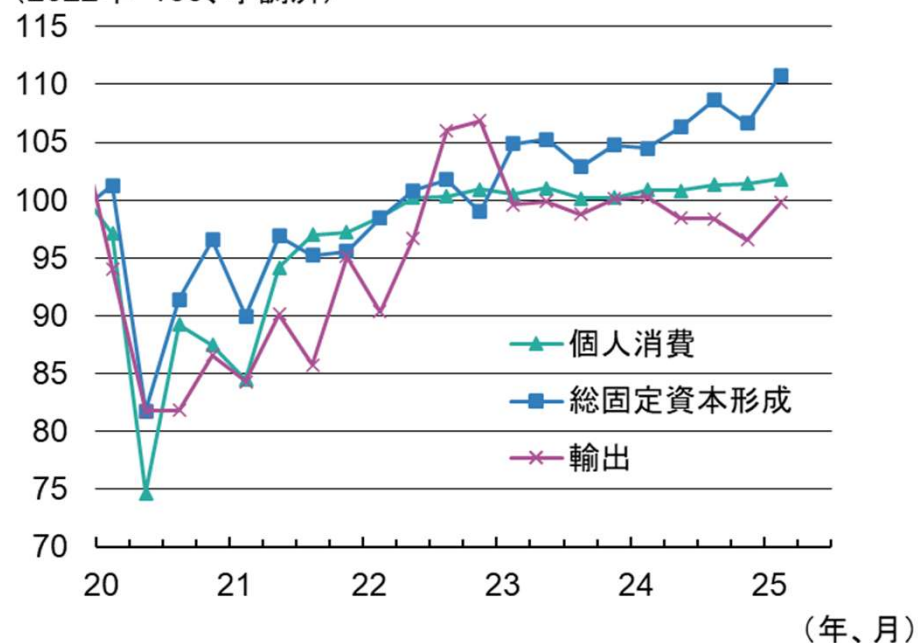
(2022年=100、季調済)



(出所) 英国立統計局 (ONS)

主要な需要項目

(2022年=100、季調済)

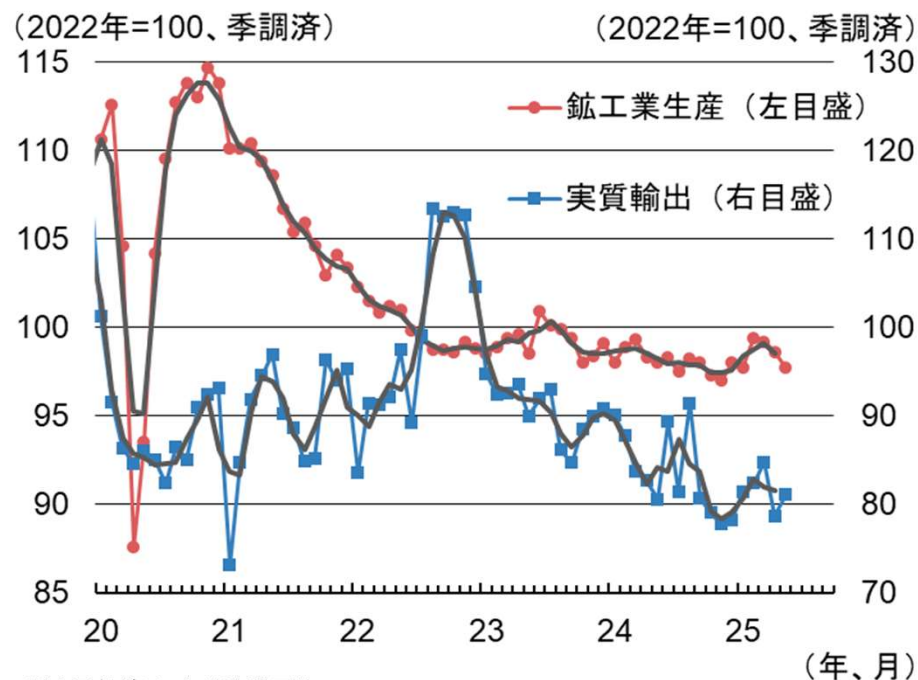


(出所) ONS

英国景気概況② 生産は足踏みしている

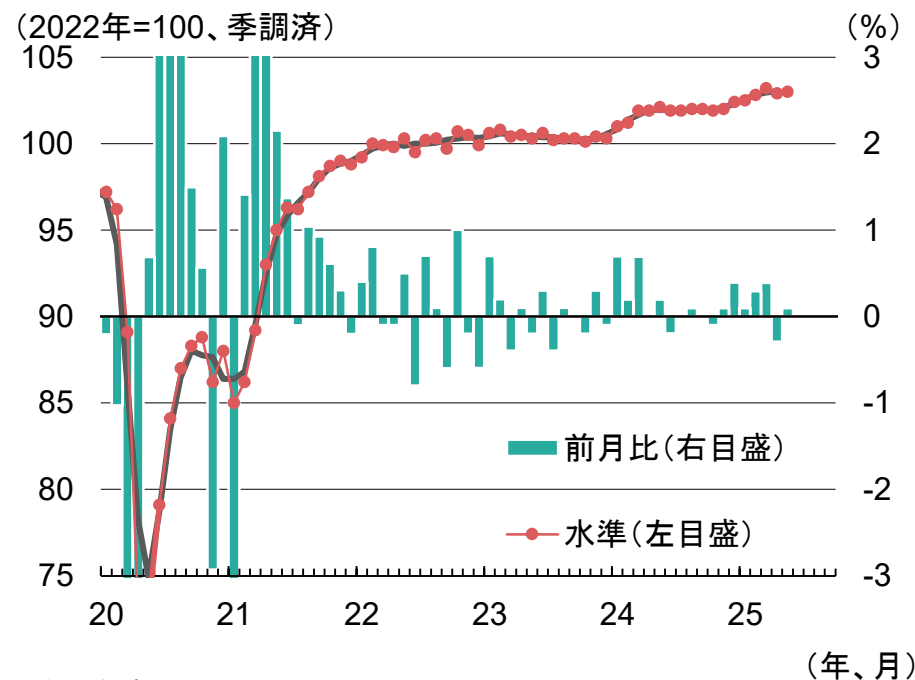
英国の5月の鉱工業生産は前月比▲0.9%と3カ月連続で減少しており、均した動きは横ばい。一方で、同月の実質輸出は同+3.1%と再び増加し、均した動きは横ばい。トランプ関税の発動を目前とした駆け込みの反動減が生じた模様。他方で、5月のサービス業生産は前月比+0.1%と増加に転じた。

製造業生産と実質輸出



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

サービス業生産

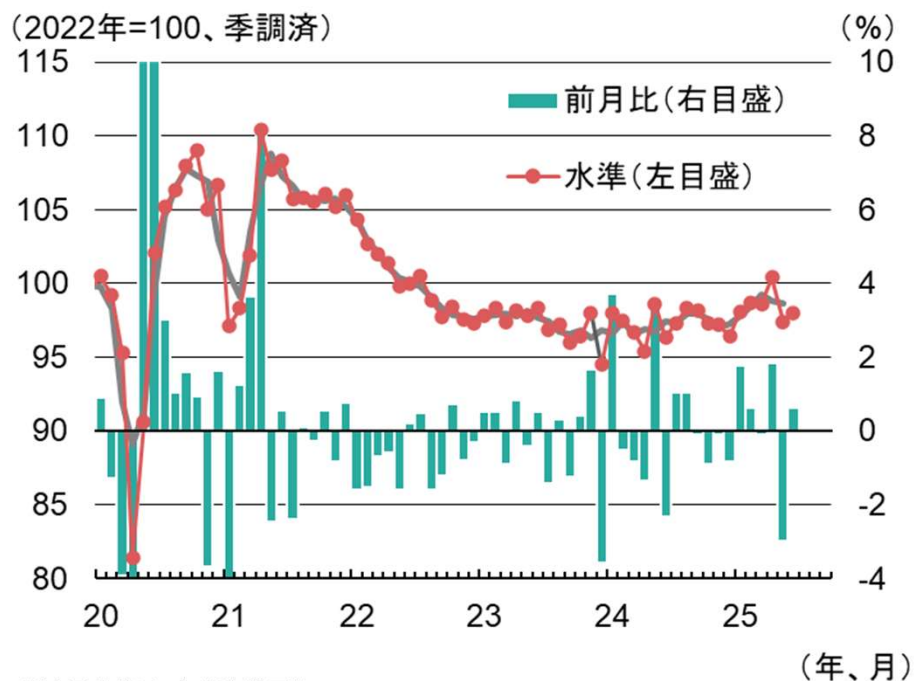


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

英国景気概況③ 消費は足踏みしている

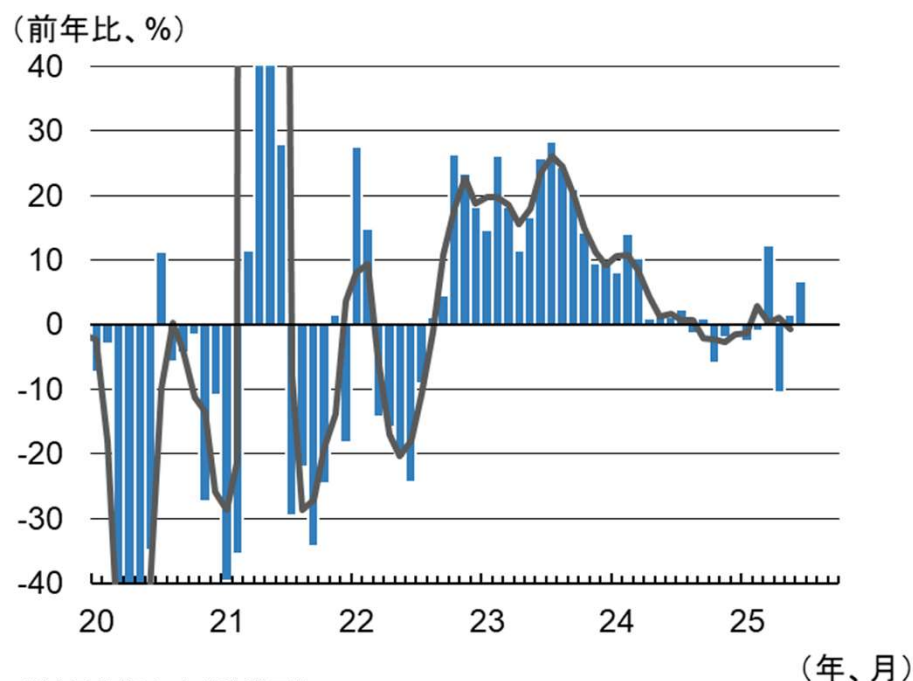
英国の6月の小売数量(除く石油)は前月比+0.6%と再び増加したものの、均した動きは横ばい。一方で、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+6.7%と、2カ月連続で増加。新車市場の規模は年率190万台後半レベルで横ばい。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

新車販売台数(乗用車)

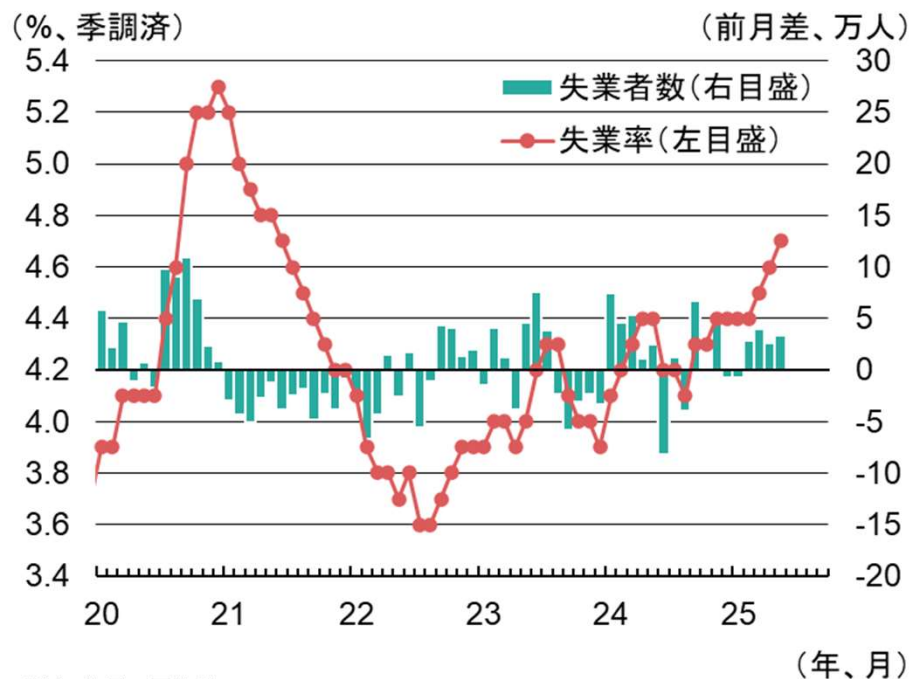


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 英国自動車工業会 (SMMT)

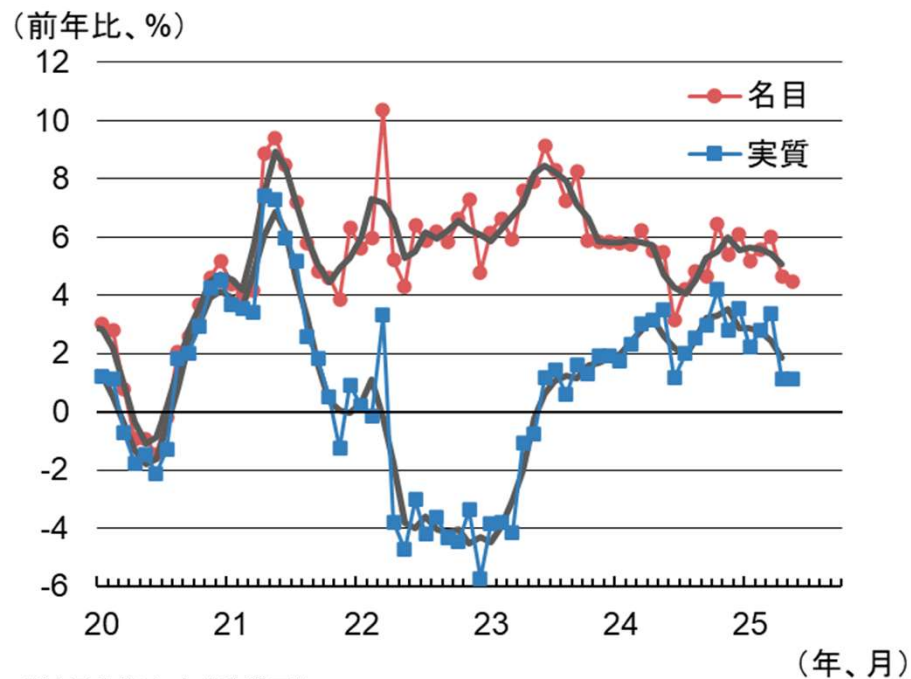
英国景気概況④ 雇用は悪化している

英国の5月の雇用統計は、失業率(3-5月期平均)が4.7%と3カ月連続で上昇。一方で、失業者数は前月差3.3万人増と4カ月連続で増加しており、雇用情勢は悪化している。他方で賃金は増勢が徐々に鈍化し、名目ベースだと前年比+5%近くまで、また消費者物価で実質化した実質ベースでも同+2%程度まで落ち着いてきた。

失業率



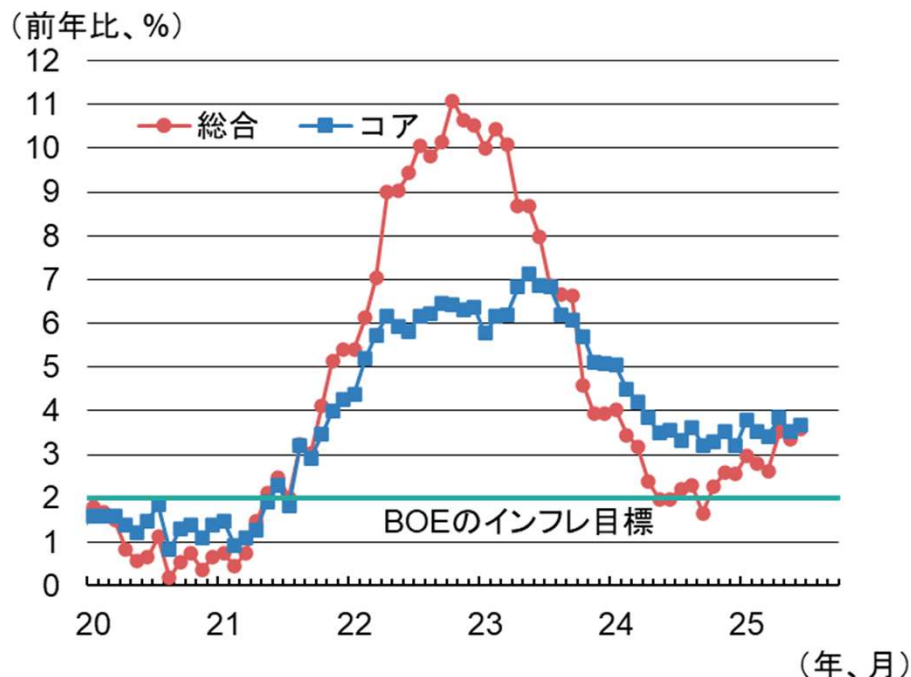
平均賃金(週給)



英国景気概況⑤ インフレは高止まりしている

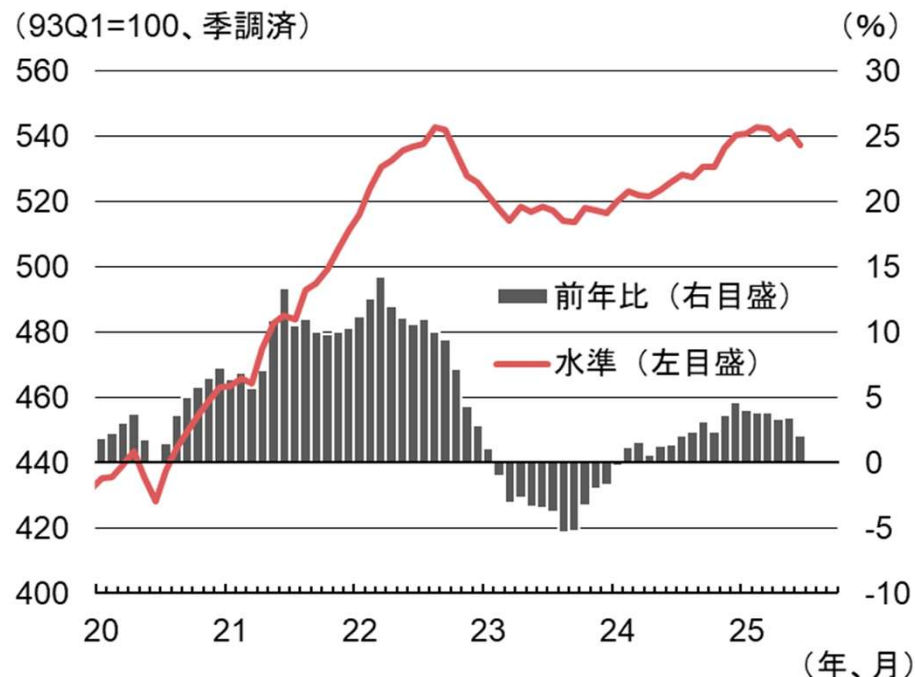
英国の6月の消費者物価は、総合ベースが前年比+3.6%と、また変動が激しい項目を除いたコアベースは同+3.7%とそれぞれ前月から伸び幅が小幅に拡大し、インフレは高止まりしている。他方、同月のネーションワイド住宅価格は前年比+2.1%と再び上昇が鈍化しており、住宅価格の上昇傾向は和らいでいる。

消費者物価



(出所)ONS

ネーションワイド住宅価格

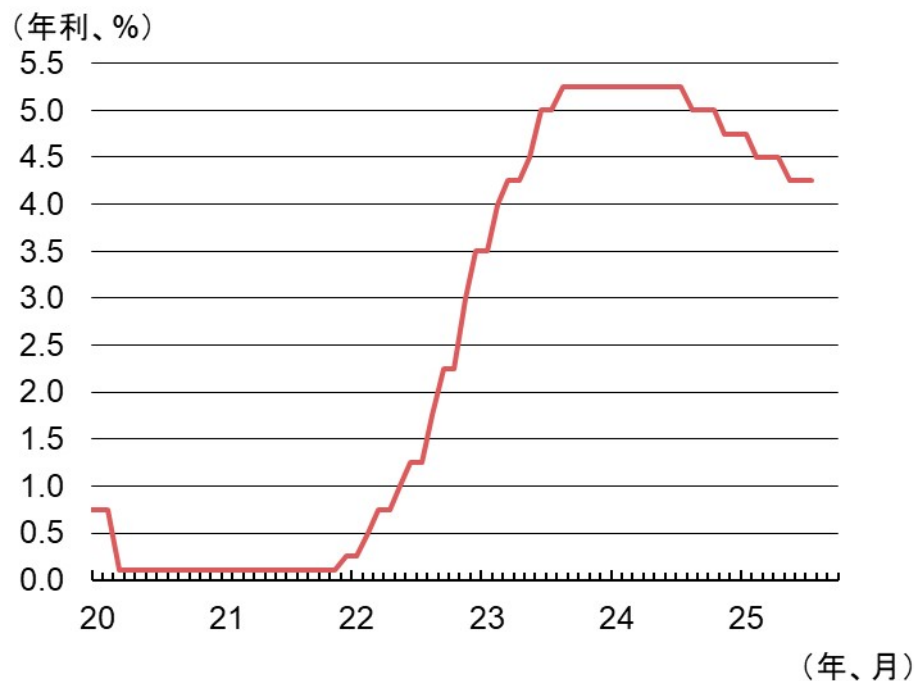


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは8月委員会で金利を据え置く見通し

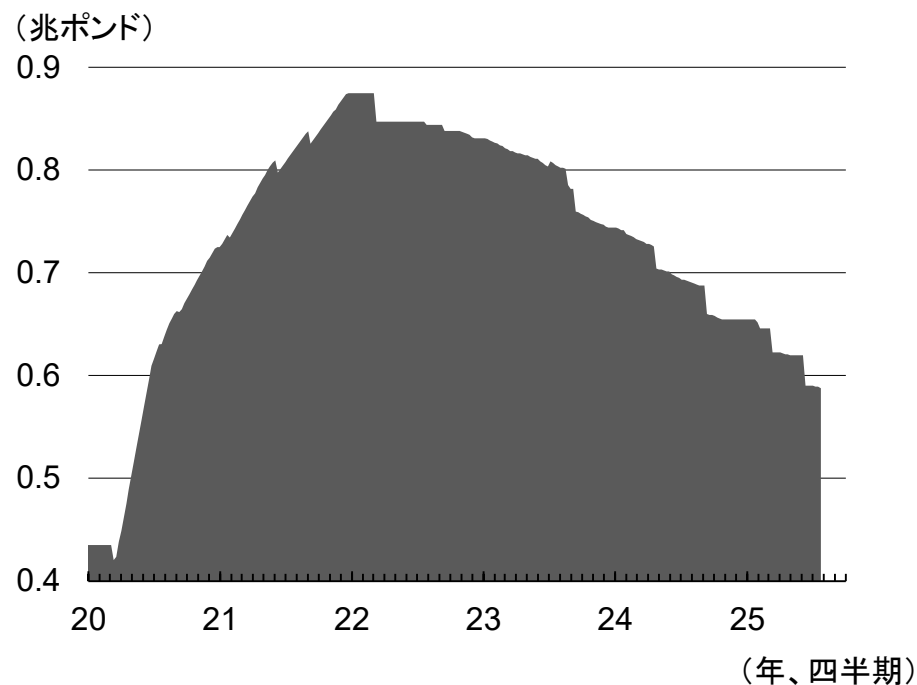
イングランド銀行(BOE)は8月7日に金融政策委員会(MPC)の結果を公表するが、政策金利を年4.25%で据え置く見通し。インフレが依然として粘着的であることに加えて、トランプ関税の悪影響を見定める意図から、BOEは追加利下げに慎重になっている。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

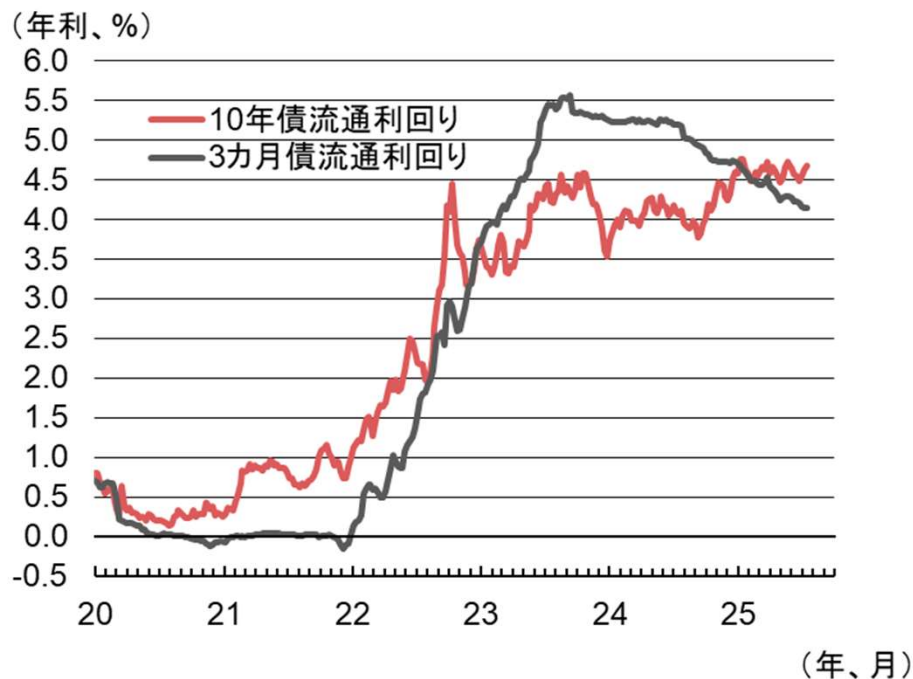
BOEの国債保有高



英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は上昇

7月の英国の長期金利は上昇。米国の関税協議の進展を受けてリスクオンムードとなり、債券が売られて金利は上昇した。一方で、同月の英国の株価は上昇。米国との関税協議の進展や企業業績の改善が株価を押し上げた。

長短金利(10年債と3カ月債)



(出所) BOE

株価 (FT30指数)

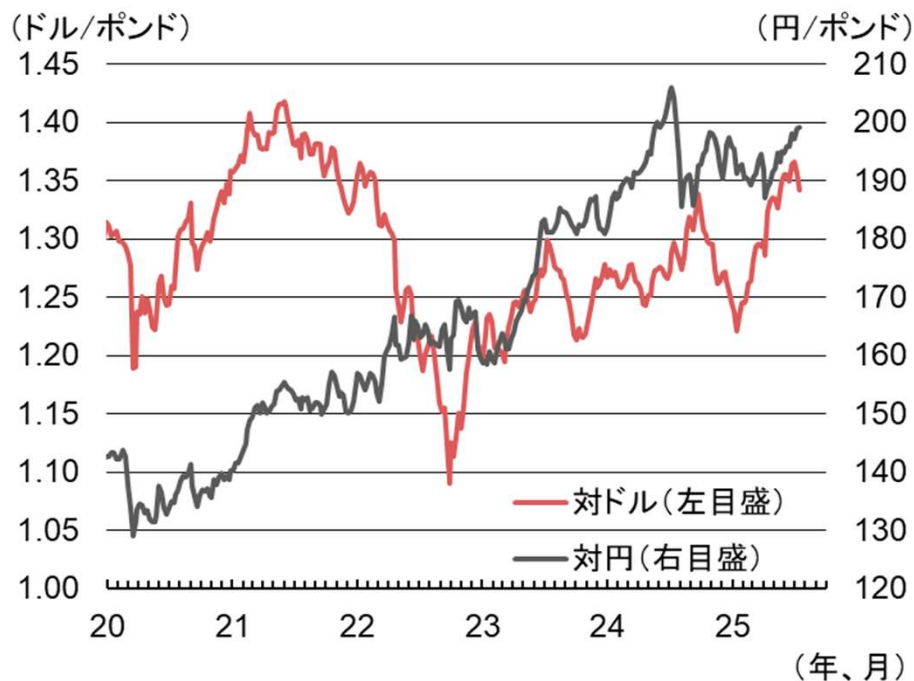


(出所) Financial Times

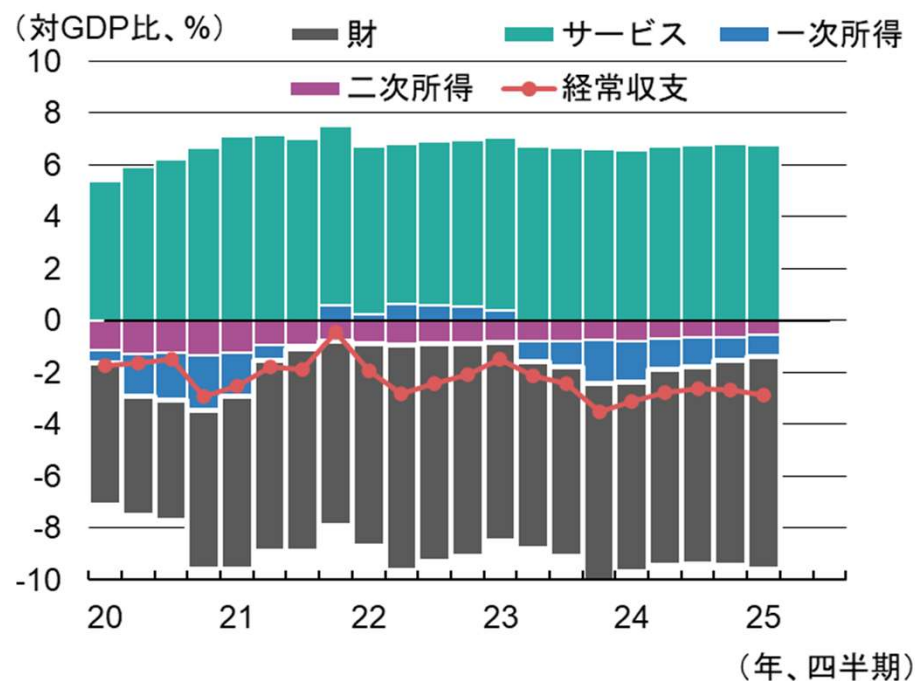
英国景気概況⑧ ポンドは対ドルで下落、対円で上昇

7月のポンド相場は対ドルで下落、対円で上昇。対ドルでは、FRBが利下げを見送ったことでポンド安ドル高となった。一方対円では、日銀が利上げを見送ったことでポンド高円安となった。経常収支は名目GDPの2%を超える赤字が定着しており、実需面からのポンド買い圧力は弱い。

ポンド相場



経常収支



ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 土田陽介

TEL: 03-6733-1628 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー